

モラルサイエンス研究会（令和2年正月8日）発表要旨

令和大礼と伝統文化

伝統文化研究室

主任研究員 橋本 富太郎

今年は皇位継承儀礼が行われる関係で、伝統文化研究室設立の趣旨と関連させつつ、御大礼における伝統文化の意味を考察した。

伝統文化研究室は、以前から存在した「皇室関係資料文庫プロジェクト」を母体とし、令和元年度に道德科学研究センターに設置された。ここでいう「伝統文化」は、モラロジーにおいて用いられる「伝統」の文化という意味であり、その中心は「国家伝統」にほかならない。伝統文化研究室では、廣池千九郎が提唱した「国家伝統論」ともう一つの「道德系統論」をもとに、日本皇室に関する資料の収集と論の構築を目指している。

今回の発表については、緒論的な研究として、皇位継承儀礼の論点を「文化財」からさらに「道德財」へと広げていく道筋を提示した。「文化」と「道德」の密接な関係をうかがうことができる。